

◆ JR九州初の古民家宿泊施設



土蔵造りの姿を残す外観



植栽に囲まれた庭園は、自然を感じながらくつろいだり、星空を眺めるのに最適だ

伝統とモダンが調和

JR九州初の古民家を活用した宿泊施設として、佐賀県鹿島市の古い町並みが残る肥前浜宿エリアに「茜さす 肥前浜宿」がオープンした。築100年を超える歴史的建造物の魅力を尊重しつつ、非日常の空間で快適なくつろぎを感じられる上質な空間を創出し、地域の歴史や文化を体感できる宿に生まれ変わった。新たな宿泊施設の誕生に、滞在型観光の推進に取り組む地域の期待が寄せられている。

(松尾 恭明記者)

多良街道の宿場町
肥前浜宿は、江戸時代に佐賀と長崎を結ぶ多良街道の宿場として栄え、昭和にかけて酒やしょうゆなどの醸造業が盛んに行われたエリア。現在は市内にある五つの酒蔵のうち、富久千代酒造、光武酒造場が製造を続けている。毎年3月末には市内の酒蔵が同時に蔵開きを行う「鹿島酒蔵ツーリズム」が開催される。肥前浜宿は、近くを流れる浜川を挟んだ茅葺(かやぶ)の民家を密集する「肥前浜宿・茅葺の町並み」とともに、歴史的に価値のある地域として、2006年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

「茜さす 肥前浜宿」がオープン

地域の歴史や文化を体感

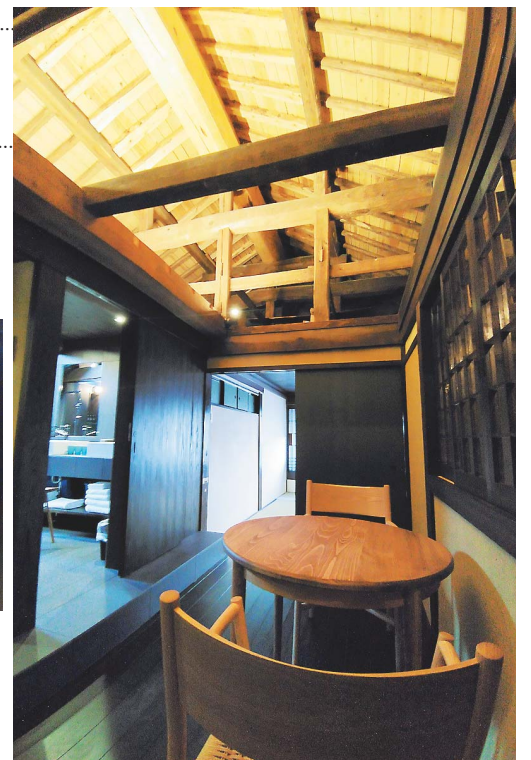


④ 階客室「有明の海の和室はモダンな雰囲気、⑤ 温もりを感じさせる寢室には地元画家が手掛けた作品が掛かる



2階踊り場には小屋組みを見せる大胆な工夫も

1階共有スペース利用客同士のコミュニケーションの場に。一部の床には改修前の大谷石が残る



2階「多良の峰」の洋間は火棚をイメージさせる照明がノスタルジーを醸成する

非日常空間で上質なくつろぎ

明治中期の建築
酒蔵通りの一角に建つ「茜さす 肥前浜宿」は、明治中期の光武酒造場の別荘として建てられた入り組んだ木造の妻入りの木造2階建て。その後、昭和後期から30年以上空き家となっていた。同保存地区認定に伴い、08年にリフォームされ、社員の厚生施設として利用されていた。

所有する同酒造場から同社が買出し、昨年5月から半年間かけて内装全体の改修や耐震補強を実施。建物の歴史や地域の特性を伝える部分を残しつつ、新たな価値を吹き込むように伝統とモダンが調和する空間を創出した。設計は古民家改修に精通する東京の繁栄建築研究所(東京都)が担当。

「別荘」のように
客室は、1階の「有明の海(約70平方メートル)と2階の「多良の峰(約70平方メートル)」の計2室を設けているが、1棟貸しも可能。正面玄関を入ると共有スペースが広がり、各客室は電子錠付きの扉で仕切られている。

伝統工芸品を展示
1階「有明の海」は和室と寢室の2部屋、2階「多良の峰」は洋間を加えた3部屋があり、いずれも浴室にはせいでなく木製バスを備えた浴槽を設けた。寢室にはドイレーン製の高級ベッドを備え、快適な寝心地を提供する。

共有スペースには
鹿島市をはじめ佐賀県で生産される陶磁器や木工品などが展示され、伝統工芸に触れることもできる。2階客室の踊り場は、天井を取り除いて小屋組みがむき出しになっており、古民家の特徴を生かした見どころの一つだ。

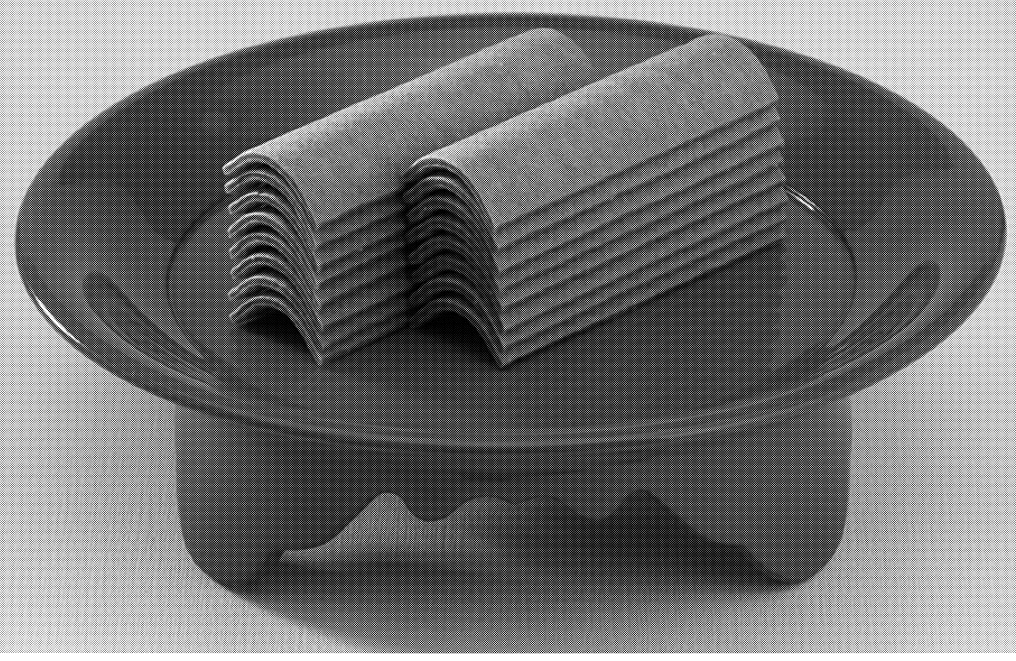
管理は、地元有志でつくる肥前浜宿まちづくり公社(社長・光武酒造の光武酒造場社長が担当。食事希望者には朝食に限り、佐賀県産の食材を使った郷土料理を中心とする体に優しいこだわりのメニューが提供される。宿泊料金は、1室(定員各4人)4万4000円から、1棟貸し(定員8人)は7万7000円から。予約は専用ウェブサイトを受け付ける。問い合わせは電話(0574)744000へ。



酒蔵通りにある観光酒蔵「肥前屋」(光武酒造場運営)は豊富な土産品をそろえ、試飲も楽しめる

創業元禄二年

味は伝統



聖護院ハッ橋総本店

京都市左京区聖護院山王町六 電話075(761)5151